

日本の神話：オノゴロ島

日本の創造神話は、天、地、そして七代続く原始の神々が登場するところから始まります。7代の最後の世代には、神話の主人公となる創造神イザナギとイザナミの兄妹が登場します。他の神々はイザナギとイザナミに地球を「形にする」ことを命じますが、この時点では漂流する流動的な塊にすぎませんでした。天国に立ち、兄妹は神の銚を海に降ろしてかき混ぜ始めます。引き上げると、銚の先端から塩の塊が滴り落ち、オノゴロと呼ばれる島が形成されます。イザナギとイザナミは島に降り立ち、その上に神殿と天柱を建てます。